

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋

人にまっすぐ。
大阪教育大学**01** 教師たちよ、たくましくあれ！**02** リレーエッセイ**03** 交流事業の紹介**05** 加盟校出身学生・卒業生の紹介**06** 加盟校の取り組み紹介**07** 大学トピックス／編集後記

教師たちよ、たくましくあれ！

リオ五輪シンクロナイズドスイミングヘッドコーチ 井村 雅代

新しい年度を迎え、心新たに子どもたちと日々をまい進されていることと思います。わたしも、間近に迫った大舞台に向けて、選手たちの士気を高めているところです。

いまはシンクロの世界にありますが、大学卒業から8年間は、大阪市の中学校で体育教師をしていました。あの時代がいまの原点であり、命を張って人と向き合うことの大切さを教えてもらいました。転身して35年が経ちますが、今もなお、忘れない思い出があります。

教師として駆け出しのころ、一人の生徒から「先生は自分の好みのトレーニングウェアを着ているのに、なぜわたしたちは皆おそろいの決まったものでないとあかんの」と質問され、わたしは返す言葉が見つかりませんでした。職員室に帰って先輩の先生に相談したところ、「あなたは社会人だから、自由もあればそれに対する責任も負う、指導する側の人間でしょう。対して生徒は指導される立場であり、社会から守られている存在なの。であれば、守られているものとしてのルールに従う必要があるし、守ることで得ることもたくさんあるのよ」と教えてもらい、すんと腑に落ちました。次の授業で自分なりに解釈したその答えを生徒たちに説明すると、皆大きく納得してくれました。

日々子どもと向き合っている現場の先生からすればささいな助言も、新任の教師には金言となります。皆さんの学校にも新しい仲間が加わってい

ると思いますが、救いを求められたときには、ぜひ手を差し伸べて助言を与えてやってください。

そして、新任教師の皆さん。人生は困難の連続ですが、それを乗り越えたときの達成感の連続でもあります。わたしも昨年10年ぶりに日本代表コーチとして水泳連盟に復帰しましたが、大手を振って歓迎されたわけではありません。だからこそ発奮し、昨年の世界水泳選手権大会では4大会ぶりとなるメダルを獲得できました。そしてそれが契機となり、わたしをトップとして五輪へ挑もうと足並みがそろったのです。皆さんもぜひ、困難に挑戦する気概を持ってください。

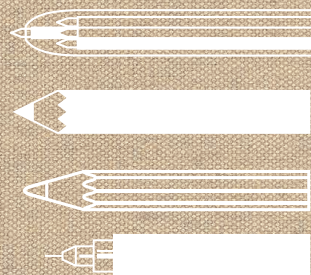
今もわたしがシンクロの最前線で闘う理由、それは、若者に人生で得たものを伝え、未来を託したいという情熱です。この熱意がある限り、心に定年はありません。教育も、教師一人ひとりが意識を高めれば、子どもたちが変わります。そして、子どもたちが変わればこの国の未来が変わります。その日まで、教師たちよ、たくましくあれ！





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



恩師の思い出

大阪教育大学教職教育研究センター
恩知 忠司

「学校の先生になりたいな」と思い始めたのは小学校五年生の頃でした。当時の担任の先生(以下、N先生)がとても好きだったからです。小学生の好きな先生はやさしい先生か、面白い先生が定番ですが、私の好きな先生はやさしいわけでも、面白いわけでもなく、強いて言えば、「厳しい」先生でした。

私は低学年の頃から、先生から見れば、生意気な小学生だったと思います。相撲が大好きで家では番付表を見ながら力士の四股名を漢字で書いて覚えたりしていました。結構難しい漢字が書けるようになっていましたので、国語の書き取りの時間が正直ちょっと退屈でした。また、九九も父親が家で付きっきりで教えてくれたものですから、算数の時間の「二の段の大合唱」があまり面白くありませんでした。顔や態度に出ていたかもしれません。一生懸命教えてくださる当時の担任の先生に私の姿がどう映っていたか、考えるだけで申し訳ない気持ちになります。

そんな不遜な態度を見抜いていたのか、五、六年担任のN先生は生意気な小学生に数々の「厳しい」試練を与えてきました。算数の問題の板書説明、宿題プリントの作成、ガリ版の学級新聞づくり、学習発表会の劇の脚本書き、小テストの採点、…等、普通は先生がやるようなクラスの仕事をどんどん与えてきたのです。N先生の意図はいまだによくわかりません。しかし、私にはN先生の試練が逆に楽しくて仕方なかったのです。今で言うアクティブ・ラーニングの連続とでも言えるでしょうか、夢中になって取り組みました。結果として、これが私にとって究極のキャリア教育になりました。

ある日の保護者懇談で、私は「将来は学校の先生になりたい」と言いました。N先生も両親もとても喜んでくれました。大人が喜ぶのを見て私もとても嬉しくなりました。その日から、私は先生になるのを夢見る小学生になりました。

大好きなN先生でしたが、ひどく叱られたことが二回だけあります。一回目はイヤだと言えずることになった飼育係をさぼってウサギに餌をやらずに帰った時でした。小さい頃に犬に噛まれてから動物が苦手な餌をやるのが怖かったのです。二回目は友達と一緒に児童養護施設にボランティアに行っ

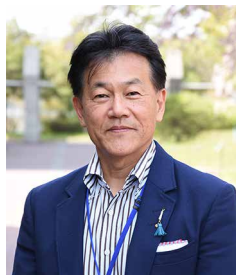
たことを報告した時でした。恵まれない子どもたちと一日遊んで「いいことをした」ことを意気揚々と報告しに行ったのです。そんな私たちに「かわいそうやから遊んであげようと思って行ったのなら二度と行くな！」とN先生は厳しい口調で言いました。褒めてもらおうと思って行った私たちは愕然としました。小学生には難問でした。「恩知くんはどうや？」と訊かれ、私は一分以上考えてから涙をこらえ意を決してこう答えました。「そう思って行ったので二度と行きません！」先生は柔らかい表情に戻りただ黙って頷いていました。「よかった…」と私は心の中で思いました。しばらく涙が止まりませんでした。

恩師N先生とは本当に濃密な二年間でした。また、両親も一層熱心に我が家の「教員養成」に心を砕いてくれました。私は、小学生なりに、大人から正対してもらっている充足感を味わっていました。このことがのちのち教師としての大切な礎になっています。

私は、先生になりたいという気持ちを持ち続けたまま学生生活を送り、大学卒業後無事、府立高校の英語の先生になりました。N先生も両親も涙を流して喜んでくれました。私は天職とも言えるこの職業に就けたことを誇りに思っています。その思いは教育委員会で教育行政に携わったときも、大学生を教えている今も全く変わりません。教育は、旅行、食べ歩き、おしゃれ、ゴルフと並んでいつも私の関心事です。

さて、教職をめざす府立高校の皆さん。私は将来皆さんが教育の世界に飛び込んできてくれることを心待ちにしています。どうか夢と情熱をもって先生になるための高みをめざして努力して下さい。先生には「なりたい」と思う人になってほしいのです。私自身がそうだったからです。

では、一年先、二年先にわが大阪教育大学でお会いしましょう。



恩知 忠司 おんち ただし

大阪教育大学
教職教育研究センター教授
大阪教育大学大学院
連合教職実践研究科教授
元大阪府立高校教諭
元大阪府教育委員会参事



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

府立高校教職コンソーシアムと大阪教育大学が意見交換

大阪府立高校32校が加盟する府立高校教職コンソーシアムと大阪教育大学との意見交換会を、大阪教育大学天王寺キャンパスにて1月6日(火)に開催しました。

加盟校のほぼ全ての校長が参加する意見交換会は昨年に引き続き2回目の開催で、同コンソーシアムから26人、大阪教育大学から27人の計53人が参加しました。

栗林澄夫学長と大阪府教育委員会事務局の和田良彦教育監のあいさつの後、中西正人理事・副学長が、加盟校の高校生に大阪教育大学の魅力を体感してもらう「大阪教育大学キャンパスガイド」や、加盟校の若手教員の教師力を向上させる「教師塾」、大阪教育大学と高校をつなぐ「メールマガジン」などの連携交流事業について報告しました。

参加した校長からは、「教師を目指す同じ思いの

生徒が集う場というのは、モチベーションの面からとても良い」「作文コンクールは夏休みの課題にしたい」「若手教員を中心に勉強したいというニーズはたくさんある」「メールマガジンで紹介される他校の取り組みに刺激を受けている」「中等教育ができる各教科の先生を多く育ててほしい」といった教育現場目線の意見がいくつも出され、活発な議論となりました。

栗林澄夫学長は「高校の学校現場から、教育への情熱をもった生徒を送り出していただき、立派な教師に育てて送り返していくことが重要であり、この府立高校教職コンソーシアムとの連携交流の重要性をあらためて痛感している。今後とも協力して連携交流事業を発展させたい」と抱負を述べました。





交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

教師のライフコースを考える教師塾「教師の学び舎」を開講

「教師のライフコース」をテーマに、高校教員向けの教師塾「教師の学び舎」第3クールを1月12日(火)、1月26日(火)、2月9日(火)の3回にわたり天王寺キャンパスで開講しました。

「教師の学び舎」は、府立高校教職コンソーシアム加盟校の教員を対象とする教師塾で、授業力の向上や生徒理解などをテーマとする3回完結の講義を提供し、実践力向上や得意分野の開拓に役立てることを目的としています。

学校現場では、中心的役割を担う30代後半から40代の中堅教員が少なく、ベテランと若手に2極化され、教員の世代交代が急速に進んでいることが課題となっています。そこで第3クールでは、スクールリーダーとしての成長を促すことをねらいとして、「教師のライフコースを考える～実践者としてスクールリーダーとして」と題した講義を大

脇康弘教授(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科)と元府立高等学校校長の田中満公子准教授(同)のペアで実施しました。はじめに田中准教授が自らのライフコースを示したあと、参加者は個人ワークとグループワークを通じて教師としてのキャリアを振り返りました。そのうえで「教育リーダー」と「組織リーダー」の視点から今後の見通しを考え、転機、危機、成長などの教職経験を学びました。

3回の講義を終えて、参加者からは「学校全体を見ることの重要性や個を高めることによる協働の深化に気づきました」「立派な先生でも大変な時期があり、それを乗り越えてきたのだと思うと励みになる」「これまでの教員生活を振り返れたことは素晴らしい経験。今の考え方や行動の根拠を再認識できた」などの感想が寄せられました。



自身のライフコースを紹介する田中准教授



グループワークで互いのライフコースを話し合う



大脇教授の講義



3回の講義を終えて、5年後の自分について語り合う

加盟校出身学生・卒業生の紹介



なかやま まい
中山 麻衣子 さん

大学院国際文化専攻2回生
池田高等学校2010年度卒

—春から、大阪府の高校で英語教諭になられるそうですね。

期待と不安が入り混じっていますが、留学経験を活かして、英語を話せる子どもが増えるように、精一杯頑張ります。

—留学先でどんな経験を？

大教大と交流協定を結んでいる、アメリカのウエスタンコロライナ大学(WCU)に、約10か

月留学しました。英語が母国語の国で、英語を外国語とする生徒をどう教えるのか、興味があったのです。WCUも教育学に特化した大学ですが、日本の英語教育との違いは、コミュニケーションに重点を置いていること。文法のルールに則り、体系的に教えるよりも、まずは楽しくおしゃべりして、英語にふれさせるという考え方です。学生同士でディスカッションする機会も豊富で、会話による語学力の定着を、身をもって実感しました。

—良い経験になりましたね。

他国の文化や考え方にふれる貴重な機会なので、皆もっと学生時代に留学してほしいです。わたしの場合、留学にかかった費用は家賃や生活・交通費のみで、留学先の学費は奨学金が支給されました。手続きも大学のサポートがあり、挑戦しやすかったです。

—どんな教師になりたいですか？

アメリカの授業スタイルを取り入れて、新しい教育の形を創り上げたいです。それと、教師は子どもの身近にいる大人の中でも、一番長く同じ時を過ごしますから、ふとした変化に気づける力をつけていきたいです。わたしも高校時代、悩みを抱えていたとき、担任の山崎尚美先生が手を差し伸べてくれました。先生のように、生徒の心に寄り添い、未来を照らせるよう頑張ります。

—本学をめざす後輩にメッセージをどうぞ。

大教大の中でも、特に教養学科は自由闊達で、池高の校風とよく似ています。OBOGも多いんですよ。いつか同じ学校で、同僚としてお会いしましょう。

なかお ゆうじろう
中尾 裕次郎 さん

教養学科数理科学専攻2回生
寝屋川高等学校2013年度卒

—教師志望だそうですが、めざすきっかけは？

自分で言うのもなんですが、目立ちたがり屋で、人前で話すのが好きなので、その代表格のような教師の道は、昔から意識していました。本格的にめざしたのは、高校時代の数学担当だった阿島剛先生の影響です。まるで水を得た魚のように、数式の証明を生き生きと解説する先生の姿を見て、「教師ってめっちゃ面白そうやん」と感じたのがきっかけでした。

—面白いことに敏感なんですね。

お笑い好きで、いまは落語にはまっています。お堅いイメージがあったのですが、実際はアホでケツタイな喋りばかりで笑っぱなしでした。語りだけで情景が浮かんでくるのがすごいですよね。咄家さんの技巧を授業にも取り入れられないかと考え、大喜利サークルをつくって、ゆくゆくは高座に上がりたいと思っています。滑るかもしれないけれど、それも成長の糧ですし、失敗を恐れず挑戦したいです。

—滑らない数学授業のために工夫していることはありますか？

塾講師のアルバイトで実践感覚を養っています。ま

だまだ途上ですが、どのステップでつまづいているのか、生徒と一緒に検証したり、生徒の多くが難しいと感じる問題から共通の傾向を探ったりして、それらの分析に基づいた解法を丁寧に展開し、「わかる」から「面白い」へとつなげていきたいです。

—本学をめざす後輩に向けてメッセージをどうぞ。

ぼくは高校時代、勉強、部活、趣味と、いろんなことに挑戦しましたが、振り返ればもっと何かできたんじゃないかと思っています。ぼくにとっての落語がそうですが、縁遠いと思うものでも、自分を高めるヒントはきっとあります。人もそうで、大教大もいろんな専攻があるので、いろんな人がいます。先入観を持たず、いろんな価値観と出会って、面白い教師、面白い人間をめざしてほしいですね。





加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立寝屋川高等学校

明治43年に三宅由太郎初代校長先生のもとに開校した、106年の歴史を誇る伝統校です。校訓「真善美」を受け継ぎ、近年「鍛える」「見守る」「高める」を教育方針に、豊かな人間力を



を育む学校としてその存在感を年々高めているところです。3年次にはGC(グローバルコミュニケーション=英語特修)コースとGS(グローバルサイエンス=理数特修)コースを設置し、多様な進路希望に対応しています。また、代々教員を志望する者も多く、数多くの卒業生が教育界で活躍しています。

今年度71期生を迎え、伝統を継承しながらも新たな取り組みにチャレンジしています。その一つに「骨太の英語力養成事業」があります。大阪府教育委員会の事業対象校となり、平成28年度からSET(Super English Teacher)が配置され、ハイクオリティな英語の授業がスタートします。

<テンミニッツ>.....

ICTを活用し、学習効率と学習効果を高めることを目指した取り組みです。外部の教育産業が開発した教育多機能アプリを利用し、生徒たちは放課後の10分間に毎日ウェブテストを受けています。解答や解説を確認できるほか、アプリにある自分の実力にあった問題にチャレンジでき、教員は生徒の累積学習時間をチェックしたり、ウェブテストの正答率や点数の推移などを把握することができます。簡単なアンケートや連絡もアプリを活用して容易に実施できると好評です。

しかし一方で、連絡やスケジュール管理をスマホで済ませるだけでなく、自分で文字を書き込み、自己管理することも大切と、今年度から学校オリジナルのスクールダイアリーに変更し、模試の結果や、自分の目標を書き込める手帳も併用して、自己管理を促しています。

<学習セミナー>.....

1年生の4月と5月の2回実施しています。目的は、自分で日々の課題をみつけ時間を有効に使えるようになること。能動的な学びが学力を伸ばすと考え

ています。各教科から高校での学習の仕方についての講義を受けた後、自分で計画を立てて静寂の中でひたすら学習します。そして10月の秋休みの3日間を利用して、集中勉強会につなげています。「わかった」「できた」という達成感を体験することがその後の伸びに繋がっていきます。この取り組みでは質問に答えるチューターとして大阪教育大学のサポートを受けました。

<国際交流と2年研修旅行>.....

国際交流を通じて異文化を肌で感じることで豊かな感性を育み、グローバル化が進む社会において活躍できるエネルギーでコミュニケーション能力が高い人材を育てることに積極的に取り組んでいます。カナダ、オークビル市のホワイトオークス校と平成2年に姉妹校提携を結び、以来20年以上交流を続けています。台湾研修は4年目を迎えました。参加希望者も増え事前の中国語研修から熱が入ります。交流内容も年々充実して交流を通じてとてもいい刺激を受ける体験となっています。そして、平成28年度からは「骨太の英語力養成事業」が始まることを受け、ハワイ大学との交流や語学研修を計画中です。

また、これまでの修学旅行を研修旅行と改め、東北地方とベトナムの二つの行き先から選ぶ仕組みに変更しました。ベトナムでは現地の高校と交流したり、現地の企業への訪問も企画中です。人を分厚く、深みのある人間に育てるために、体験活動を中心に据え、その質に拘っていきます。



このように寝屋川高校は伝統を受け継ぎながらも多様化する社会に適応するために「日々新た」をスローガンに、様々なチャレンジを試みています。そして、時流に左右されことなく、人間形成という不易を根本に「自由の意気、空より高し」と歌う校風の中で、教育の質に拘ります。

大学トピックス

TOPICS

小学生向けに イングリッシュキャンプを開催

遊びを通して生きた英語を学ぶことを目的に、小学3、4年生を対象としたイングリッシュ・デイキャンプを柏原キャンパス大学会館で開催し、約70人の児童が英語の世界を体感しました。

外国語学習支援ルームのジョン・トムセック特任准教授による進行のもと、子どもたちは英語で挨拶を交わして獲得したネームカードの数を競い合ったり、世界の国旗でかるたや旗取りゲームをして身体を動かしたりと、さまざまなアトラクションに挑戦し、楽しく英語に親しみました。

このイベントは、北海道教育大学、東京学芸大学、愛知教育大学と本学の連携事業として開催され、4大学から学生24人が集まり企画運営に携わりました。学生たちからは「限られた時間の中での企画や準備は大変だったが、たくさんの子どもたちの笑顔に出会えてしんどさも吹っ飛んだ」「ジョン先生の授業テクニックはとても勉強になった」「他大学の学生と親睦を深められてよかった」などの声が上がリ、皆充実した表情を浮かべていました。



平成28年度 大阪教育大学入学式を挙行

平成28年度入学式が4月7日(木)に大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で挙行され、新入生1,299人が本学学生としての第一歩を踏み出しました。

栗林澄夫学長は式辞で、明治7年から現在に至る本学の歴史や、秋山好古をはじめとする本学が世に送り出した人材を紹介し、本学の伝統を示すとともに、グローバル化やICTなど現代の教育現場のニーズにも対応していることを強調しました。そして「失敗を恐れず、人生の中で二度と訪れないこの貴重な時期を、自己実現と自己の確立のために有効に過ごしてください」と呼びかけました。

式典の締めくくりとして、教養学科芸術専攻音楽コースオーケストラによる記念演奏があり、ヴェルディの『凱行行進曲』とヨハン・シュトラウス1世の『ラデツキー行進曲』の2曲が披露されました。『ラデツキー行進曲』では、本学公式キャラクターの「やまお」と「たまごどり」が登場し、音楽にあわせたダンスを見せて新入生を楽しませました。



編集後記

教職コンソーシアム連携交流事業が2年生に進級することができました。初めての取り組みということもあり、取り組みの名付け親になったり、素晴らしい先生や生徒さんと出会ったり、楽しい思い出がたくさんできました。作文コンクールで受賞した2人の生徒さんが、4月から本学の学生になったと聞き、メールマガジンの名前のとおり「架け橋」になったやん！と仕事へのやりがいますます感じています。

さあ、真価が問われる2年目。新規事業も含めてよりパワーアップした魅力ある取り組みを準備していますので、ご期待ください。

(Y)